日本共産党は全国で７議席獲得
野党統一候補が１０選挙区で勝利

東京選挙区

吉良よし子 当選

「ブラックな働き方をなくす」「学費を半額に」など、国民の切実な願いを国会で取り上げてきた吉良よし子氏が、参院選東京選挙区で再選（２期目）をはたしました。

吉良氏は、かかげた公約の実現にむけ、決意をあらたにしています。

日本共産党青梅市委員会は、上記の見解を発表しました。

東京選挙区結果

政党	候補者名	当選	東京都	青梅市	羽村市
自由民主党	丸川珠代	当	1143459	12660	4034
公明党	山口なつお	当	815445	9621	3790
日本共産党	吉良よし子	当	706532	6750	2863
立憲民主党	塩村あやか	当	688234	5314	2589
日本維新の会	おときた駿	当	526575	3752	1660
自由民主党	たけみ敬三	当	525302	4127	2430
立憲民主党	山岸一生		496347	5177	1752
れいわ新選組	野原よしまさ		214438	1497	590
国民民主党	水野もとこ		186667	1343	775
NHKから国民を守る党	大橋まさのぶ		129628	1060	457
社会民主党	朝倉れい子		86355	815	339
	以下、略				
定数　6人		合計	5751269	54438	22018

青梅民報　7月 号外　2019年7月22日発行
発行責任者 斉藤 光次
青梅市野上町 1-54-1

東京・青梅・羽村の比例代表得票結果

政党	東京都	青梅市	羽村市
自由民主党	1878316	18075	7080
立憲民主党	1020185	9351	3920
公明党	665106	7878	3154
日本共産党	651338	6268	2642
日本維新の会	479908	3603	1478
れいわ新選組	458152	3099	1185
国民民主党	272991	3678	1564
NHKから国民を守る党	133732	1054	470
社会民主党	103756	920	410
安楽死制度を考える会	53437	365	167
オリーブの木	22041	207	85
幸福実現党	18488	186	62
労働の解放をめざす労働者党	6882	91	37
全党派計	5764332	54775	22254

比例代表では、日本共産党は全国で448万票を獲得し、小池晃党書記局長のほか、山下芳生、紙智子、井上哲士の4氏（いずれも現職）が当選しましたが、前回の5議席には届かず、仁比聡平議員の議席を失いました。

選挙区では、前回につづき東京で吉良よし子、京都で倉林明子の両氏と埼玉で新人の伊藤岳氏が議席を獲得しましたが、大阪では辰巳コータロー氏が次点となりました。

全国的には32ある1人区のすべてで野党の統一候補が実現しました。前回は31の1人区のうち29区が自民党候補の当選でしたが、今回は10区で野党統一候補が勝利し、野党共闘が大きく前進する選挙となりました。

「改憲勢力」は3分の2未満に

安倍首相は「改憲発議・国民投票を自民党総裁の任期中に実現したい」と述べていますが、自民、公明、維新などいわゆる「改憲勢力」の議席は参院選の結果、改憲発議に必要な3分の2の議席を割り込みました。

そもそも、安倍首相は改憲について「議論が必要」と言ってきましたが、改憲をのぞむ国民の世論は、各社の世論調査などを見ても全体として低く、国民が参院選や今の政治に期待することの中心は経済や社会保障など暮らしにかかわることです。

しかも、現在国会に設置されている「憲法調査会」は、改憲の発議をするための機関であり、ここでの議論は「改憲発議のための議論」でしかありません。現代の社会の課題と憲法について一般的に議論したいのであれば、それは憲法調査会で行うべきではなく、国会の自民党、公明党が大事な参院選の前の時期に3か月も開催しなかった予算委員会でも十分にできることです。むしろこれまで憲法をないがしろにしてきた安倍政権に憲法改定を議論する資格はないのではないでしょうか。

選挙後の首相発言を報じる各紙

日本共産党は、安倍政権の狙う憲法改悪ではなく、憲法に示されている基本的人権の尊重やくらしの向上、平和主義の実現こそ追求すべきであると考えています。そのためにも、暮らしを直撃する年金の削減や消費税の増税、社会保障の削減をやめさせ、野党の中での一致点を広げ、安倍政権にかわる新しい政治をみなさんと力をあわせてつくります。どうか、しんぶん赤旗のご購読など、さらなるご支援をお願いいたします。